

# 成田 滋賀県議会議員 セイリユウ

滋賀県議会活動 NewsReport Vol.59 2019年秋号



## 未来への責任

台風15号19号等の猛威により、被害にあわれました皆様にお見舞い申し上げます。あらためて自然災害の脅威を感じながら、河川や山林等の安全性の向上や長期的な停電への対応など、様々な課題に対応すべく取り組んでいかなければなりません。

地球温暖化対策やプラスチックごみ対策など、環境政策の促進も、重要な政策課題となってきております。安心安全の社会を築くために引き続き頑張っ



国連環境計画シンポジウムに参加

プロフィール：1974年8月15日大津市生まれ

- 唐崎小、中、膳所高、龍谷大学法学部政治学科卒業
  - 同志社大学大学院総合政策科学研究科博士前期課程修了
  - 議会運営委員会委員 ●環境・農水常任委員会委員
  - 琵琶湖対策特別委員会委員 ●滋賀県議会自転車議連副会長
  - 第11回マニフェスト大賞 優秀政策提言賞受賞
  - 宅地建物取引士 ●大津市消防団地域防災指導員
- 〒520-0106 大津市唐崎1-20-28 mail@narinari.net

## 琵琶湖対策の推進を!

今年は暖冬の影響により、酸素を含む表層の水が冷えて湖底に行き渡る現象「**全層循環**」、いわゆる「**琵琶湖の深呼吸**」が確認されず心配されています。今後も気候変動の影響により、継続的に「全層循環」がおこらない可能性もあり、観測体制の強化等を行っていく必要があります。滋賀県として、琵琶湖環境科学研究センターや水産試験場等の試験研究機関において、水中ドローンの使用などの新たな技術の導入や、より詳細なデータを取るための測定手法等を検討するとともに、国立環境研究所とも連携し、水中の溶存酸素量に影響を与える湖底の泥などに関する調査・研究を進めていかれます。

### ○南湖の水草

根こそぎ除去や表層刈取りなどの取り組みにより、昨年の水草刈除去量は減少したものの、本年はまた増加傾向

### ○侵略的外来水生植物（オオバナミズキンバイ等）

生育面積を縮減しているが、北湖も含め、全局的に群落が拡大

### ○琵琶湖の生態系

フナやモロコの漁獲量などは回復の兆し、アユに関しても一定の回復があったものの、在来魚介類の生態系は依然として、不安定な状況。ブラックバスやブルーギル等の減少傾向も勘案すると、魚介類にとって琵琶湖は息しにくい環境になっている。

気候変動やマイクロプラスチック問題等、様々な課題が複雑・深化していく中で、「**国民的資産**」に位置付けられた琵琶湖の**保全・再生**に向け、国と連携を取りながら、恵み豊かな琵琶湖として次世代に引き継げるように、取り組みを進めていく必要があります。滋賀県としても、多様な主体との連携のもと、「琵琶湖保全再生施策に関する計画」に基づき施策を推進しているところです。



湖岸に漂着する水草



水質実験調査船「びわかぜ」  
(琵琶湖対策特別委員会)



アジアアフリカ支援米 稲刈りボランティア



伊吹山生態系調査(環境・農水常任委員会)



唐崎学区防災訓練 台風19号募金活動

## 滋賀の魅力発信について

来年度は「健康しがへの挑戦」をメインテーマとし、人・社会・自然の3つの健康を柱とする「健康しが」の取り組みをもう一段高め、文化、スポーツ、観光などの可能性を伸ばすとともに、教育、福祉、環境、交通などの社会的課題について、滋賀県から先導的に解決していくという意欲や志を打ち出した予算を考えておられます。

様々な取り組みを一過性のものにせず、滋賀の魅力を磨き上げる施策にしていき、**住んでいる県民の誇りや癒しにつなげる**とともに、**国内外、多くの方々に魅了する滋賀、観光に訪れたい滋賀**につなげていかなければ意味がないといえます。

## ○観光入込客数と経済効果について

今年度から行われている「スカーレット」に合わせて展開する「ほっと滋賀色」キャンペーンでは、観光入込客数を150万人の増、観光消費額を51億円の増、大河ドラマ「麒麟がくる」と合わせて展開する「戦国ワンダーランド滋賀・びわ湖」キャンペーンでは、観光入込客数を450万人の増、観光消費額を153億円の増と試算しております。



坂本城址公園

## 琵琶湖レジャー対策の強化を!

今年の夏は水上オートバイにかかわる死亡事故も発生するなど、船舶事故も多発しました。さらに早朝から住居近辺を航行したり、水泳場のブイの真稜を、猛スピードで航行したり、白髭神社の鳥居をくぐる映像が報道されるなど、迷惑行為に関しても多くの苦情が寄せられております。生活環境の保全を行っていくためにも、

- 水上警察隊の増強や警備艇のさらなる整備
- レジャー監視体制の強化について
- 航行規制区域の拡大
- 水上オートバイの積み下ろし場所の制限 等、

多様化する課題に対し、今後、**琵琶湖レジャー条例に基づく基本計画の改定の必要性**を代表質問において求めました。

三日月知事からは関係市町や関係団体から聞き取りを行うなど、地域毎に異なる課題を把握した上で、滋賀県琵琶湖レジャー利用適正化審議会において議論を行い、新たな計画の「**施策展開の基本方向**」における「**ローカルルール等の推進**」の柱として位置づけるなど、多様化する課題の解決に向けて関係者が一丸となって対応できるよう、改定の検討を進めると答弁を頂きました。

また水難事故の原因の一つである「浜がけ」については、**自然的環境・景観保全の観点から河川整備計画に位置づけ、順次対策を実施**、突堤の設置や河川浚渫による土砂の搬入などを実施、昨年の台風の被害箇所は、今年度調査のうえ対策工法の検討。なお、台風などにより局所的に小規模な浜がけが発生し、民有地や道路などに影響を及ぼすおそれのある場合には、袋詰め玉石の設置や、土砂の搬入など、逐次応急対策を実施されます。

## ○ビワイチについて

日本を代表し、世界に誇れるサイクリングルート、「**ナショナルサイクリングルート**」が創設され、「**ビワイチ**」が候補として発表されましたが、多言語による道標等案内版の設置や危険箇所の対策、初心者でも安心して走行できるルート選定等、事故なく快適に走行できる環境整備が必要であります。

滋賀県では令和2年には16万5千人を目標に、女性や親子連れ、外国人観光客などにも満足いただけるよう、誰もが利用しやすい走行空間整備、レンタルサイクル施設の利便性向上、多言語での案内充実等を事業者や市町と連携しながら施策を進めていくと、三日月知事の答弁がありました。

## ○滋賀版MaaSの推進について

交通不便地での移動手段の確保、渋滞の解消、県内に点在する観光資源を活かした周遊観光の利便性向上などを図るため、様々な実証実験を通じて、滋賀の地域特性を踏まえたMaaSの仕組みの構築に積極的に取り組むとの三日月知事から答弁がありました。

### MaaSとは

モビリティ・アズ・ア・サービスの略で、スマホアプリ等により、地域住民や旅行者一人ひとりのトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせることで検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、新たな移動手段であるシェアサイクル等や観光チケットの購入等関連サービスも組み合わせられる。

## 北大津養護学校の学びの環境を調査



チームしが県議団の団体との意見交換会を受け、昭和54年に開設された北大津養護学校へ調査に行きました。男女の共用トイレ等、学校の老朽化した設備環境の課題に関して、お話を伺いました。今後、政策課題として、会派としても、取り組みを進めてまいります。



男女共用のトイレ